



奈良・人と自然の会

〈わたしたちは大和の自然を愛します〉



奈良の万葉歌碑めぐり ②

有本 倍美

「采女の袖吹きかへす明日香風都を遠身いたづらに吹く」 志貴皇子 卷1—51

昨年、蘇我蝦夷と入鹿の屋敷跡が発掘された国営明日香歴史公園甘樫丘地区の車道から公園内を南へ行くと売店があり、その前の間伐材で組んだ階段を上ると中腹の曲がり角にひっそりとこの歌碑がある。犬養孝の揮毫による万葉仮名の原文で「媛女乃袖吹反明日香風京都乎遠見無用尔布久」とある。大意としては「采女の袖吹き返す明日香風は都が遠くなった今ただむなしく吹いてゐるだけである」 飛鳥の都は 6 世紀末からおおよそ 100 年間続き、694 年藤原京に移り、わずか 16 年で平城京に移った。飛鳥京は歴代の天皇が皇居を中心に宮を設け、掘立柱の建築様式のため長持ちしない事情もあるが、天皇ごとに宮が遷った。舒明天皇、斎明天皇の飛鳥岡本宮、同じく斎明天皇の飛鳥川原宮、岡本宮、天武天皇の飛鳥浄御原宮、用明天皇の池辺双槻宮、推古天皇の小墾田宮、豊浦宮、顕宗天皇の八釣宮、宣化天皇の桧隈廬入野宮など飛鳥地域に点在していて、これらを総じて飛鳥京と称している。さて作者の志貴皇子は天智天皇と采女の子に生れた皇子で母の身分が低いがゆえに政の表舞台に立たず、もっぱら詩歌を得意とし、万葉集にも新しくて流麗で明快な歌が多い。

芦辺ゆく鴨の羽交に霜零りて寒き夕は大和し念ほゆ 卷1—64

むささびは木末求むとあしひきの山の獵夫にあひにけるかも 卷3—267

大原のいち柴原の何時しかとわが念ふ妹に今夜逢へるかも 卷4—513

石ばしる垂水の上のさ蕨の萌え出づる春になりけるかも 卷8—1418

神名火の磐瀬の杜のほととぎす毛無の岡に何時か来鳴かむ 卷8—1465

冒頭の明日香風は特に有名で袖吹きかえすというエモーショナルな風景は采女であった母の美しい面影を重ねていたのかもしれない。また都が移って今や寂寞たる飛鳥から遠望しても懐かしい思いばかりで新しい都に馴染めないでいる。

さてその後 16 年の短命に終わった藤原京はその原因として急激に巨大化した都市化による衛生面の問題、疫病の流行などがあったのではないか。そして隣接する諸外国を牽制する思いで造った当時世界一の都はあえなく泥田に戻ってしまったのである。

3月25日、集合時間直前まで降っていた雨もあがり、この日の参加者21名は壺坂寺までバスで移動、一年越しの高取城址へと向かいました。

壺坂寺から約1キロのぼると巨岩に刻みつけた五百羅漢の石仏群に圧倒されます。登り下りをくり返しながらか、八幡神社から高取城中門をへて標高584メートルの高取山に築城された日本一の山城へ、「異高取雪かと思えば 雪でござらぬ土佐の城」と謳われた本丸跡からは吉野・大峰などの山々が一望できます。

桜にはまだ少し早かったのですが、途中高橋さんからカシ類の垂直分布についてお話を聞きし、ツルシキミの花やニッケイを観察するなど楽しい一日をすごしました。

下山後は土佐街道で3月いっぱい約80件で展示されている「町家のひなめぐり」を楽しみました。

豊島 記

イベント報告・アースデー2009inなら

小嶺敏勝

「第20回アースデー2009inなら」が4月19日奈良県流域下水道センター自由広場で夏日の晴天のもとで開催された。

本年は2000人の参加者を目標に、25のブースが用意され、他にフリーマーケット25店、はしご車、レスキュー車、起震車体験、その他、参加者も多く例年になく充実したものであった。

10時から約1時間、全員で会場近くの川を、大和川クリーン作戦と称してゴミ収集の後、中央舞台では演舞、民謡、ミュージカルその他が始まり、同時に展示、体験、販売が始まった。

当会からは、タケ工作体験で参加し、(タケ鉄砲、ケンダマ、マイ箸)大変好評でした。又、会の紹介の時間も有り「奈良・人と自然の会」のPRになった。

スタッフも今回、工作での催しでは最大の9名の参加を頂き今後の展望が開けて心強い。

*参加スタッフ：本郷、樋口、古川、阿部、弓場、岸谷順、岸谷和、安川。

く癒しの散歩道

うららかなり春の仲間たち

谷川万太郎

キラキラ照らす光のオブジェも美しく 煌く春の川に眩しくまばたく水の精
 岸辺に寄り添うけなげな菜の花の 甘い香りを後にして姿を隠す紋黄蝶
 柔らかな陽だまりの中を微風に乗って 揺れながら何処に飛んで行くのだろ
 まるで恋に夢中な虫のように甘い蜜を頼りに匂いの故郷まで短い旅に出るのだ
 鮮やかな空に雲さえ恥ずかしく消え去って 思わずほころぶ笑顔が舞い踊る
 気がつけば目の前に野里が揺がり 山鳩がいつか手を振って出迎えてくれた
 草花の蔭に隠れて土から顔を出す虫たち 鳥たちが歌う春の声も山にこだまする
 春の仲間たちよ皆手をつないでお花畑に飛び出そう この野原いっばいに胸揚げよう!



シマアジ (カモ科)

4/6 大和川にて

4月3日(金) 参加者 27名

担当：小嶺・勝田

3月末にはモクレン・トウモクレンで山一帯が白とピンク色で覆われていましたが、当日はサンシュユ・アオモジの黄色が目立っていました。日ごとに山の色は変化しているようでした。晴天だったため眺望も楽しんでいただけたと思います。少し汗ばむ位のコースでお疲れ様でした。

<参加者感想の一部>

★春の到来を五感で味わうと共に新年度の始動を実感できました。 小田 進八郎

★好天に恵まれ、楽しく良い実りのあるウォークでした。少し盛りを過ぎていると言われていたが、予想以上で、敬王ザクラ、モクレン、コブシ、サンシュユ、リョーブミツマタ等々久しぶりの英気を養いました。 高松 秀行

★良いコースでいいガイド、もちろんいい天気何も言うことはありません。自然と人工美の妙でしょうか 塩本 勝也

★昨年に続き二度目の桃源郷散策です。余りの美しさに、是非見ていただきたいとご近所の方をお誘いしました。モクレンは散り始めていましたが、小嶺さんの想像してくださいのお言葉通り、頭の中は満開の真っ白なモクレンが一杯色とりどりの木花の美しさに心豊かな気分になりました。来年も行きたい。 吉村 さつき

★良い天気にも恵まれての平群谷の桃源郷は、モクレン・サンシュユ・アオモジ・トサミズキシナレンギョウ・・・等 色とりどりで美しく少しかすみがかかりおだやかな日でした。

平群のサクラ、ケイオウサクラと正月サクラは初めて聞いたサクラでした。

新しい事が一つ知れてよかった。

宇野 利子



《 逢坂雅子 撮影 》

★聞きしに勝る景色に幾度も感動しました。 宮澤喜代子

★ゆったり、のんびり春の空気を思いっきり吸いながら、歩いてよかった。谷間に淡い色の花々が見事に咲いて、身も 心もほっこりしました。 松本 悦子

★こんなに近くに見事な郷があったとは、驚くばかり。時期は多少ずれていたがその盛りを思わせる景色は十分残っており、楽しい一日を過ごすことができました。

岡田 勝夫

★昨年来て大変よかったので、行く機会がなく今回を楽しみにしていた。桃、菊等いろいろ植えられ、豊かな里山を歩くのは本当に気持ちよかった。 板橋 宏昌

ならやまプロジェクト・レポート 21年4月

ならやまプロジェクトは、3月末で発足後2年目の活動を終わりました。

この1年間の活動は、定例活動・臨時活動合計89回、参加人員は昨年の3倍となる延べ1283人に達しました。活動は、①環境クリーンアップ、②放棄田畑の復元、笹藪の刈取り、③里山の整備、④里山の活用、⑤参加者の輪を広げる、の項目に沿って展開されました。

この間、次第に美しさを取り戻していく里山の姿に力づけられながら、仲間と共に流す気持ちのいい汗、相次いで参加される新しい仲間たち、行政当局の理解とバックアップの具体化などの好循環に支えられて、計画は予想以上の成果を上げることが出来ました。県、市の行政当局からも、好意的な評価をいただいて、活動は弾みがつきながら3年目を迎えようとしています。この間の会員各位のご尽力に心から敬意を表しつつ、第3年目の活動をさらに進化させていきたいと考えています。引き続きよろしくお願い致します。

以下、新年度に入って最初の月の活動状況につき、報告いたします。

4月11日(土) 晴 菜の花祭り 参加者61名(内 新入会員10名、奈良生協関係22名)

・快晴に恵まれ、整備が終ったA地区の里山は、コナラ林の新芽で煙るような山肌のあちこちにヤマザクラ、ウワミズザクラのパステルトーンの彩り。満開の菜の花畑は、鮮やかな黄色一色。隣の田圃には蛙の声。2年前には想像もしなかった春の里山の風景が目の前に広がる。菜の花祭りは、ならやまプロジェクトの成果をじっくり味わいながらのお祭りとなった。里山で取れたタケノコ、野草の料理を味わい、春の里山散策を楽しんだ一日でした。(詳細は別記)

4月12日(日) 晴 杉の子文庫の里山見学 参加者21名

・近隣のボランティアグループの「杉の子文庫」から菜の花畑見学の申込みがあり、ならやまプロジェクトのPRにもなればと、急遽メンバーの有志7名がお世話することになる。菜の花見学、里山観察、自然工作と急遽作ったメニューだったが、子供達・保護者はすっかりご満足の様子。ここが大変気に入っていただき、我々の活動の理解者がまた増えたことは間違いないようです。

4月13日(月) 晴 ならやま「鳥の日」 参加者3名

4月17日(金) 曇り ゴミ収集、用水路ゴミ浚え、田圃草取りなど 参加者26名

・4月最初の環境クリーンアップ作戦。自転車道路沿いには、新たなゴミが放棄されている。心無い行為に怒りを覚えつつも、これが景観形成の第一歩と心得て、全員で一斉に回収する。次いで、日頃お世話になっている用水路には、昨年来の落葉が厚く堆積している。これを取除くのは大変な作業だが、皆でやれば思いのほか捗る。仲間の力を実感させられる事でした。

・今年から稲づくりに挑戦する田圃を、会員の鈴木末一さんの指導で下準備をする。泥に足を取られながら、カラス藪などの雑草を取り除く。田植えは6月上旬を予定。

・カブトムシの幼虫を囲い込むため、コンポर्टでアパートを作りました。周囲は竹垣で囲ってあり、さぞかし快適な住まいになっていることでしょう。6月以降の羽化が楽しみです。

・「学びの森」を整備しています。笹、下草の刈取り、枯倒木の処理、丸太ベンチの設置など木漏れ日の林間学校をイメージしながら、里山グループのメンバーが取組んでいます。

** お知らせ **

ならやまプロジェクトも3年目を迎えて、活動の分野、量が共に増えてきました。これに対応するため、次のような分野別グループ体制で臨む予定です。(後日、詳細をお知らせします)

A 里山グループ

里山の手入れ、観察路の整備、植生調査など

B 農園グループ

田畑の復元維持、収穫物の処理、有機農業の実践

C 景観・環境改善グループ

環境整備、植栽・花壇、笹藪・草刈の払い

D 教育・イベント・広報グループ

会員研修、イベント、実習生受入など





*** ならやま里山林花だより ***

林 令子

4月11日(土) 百花繚乱 山も野も花がいっぱいです。

野にはムラサキケマン、シハイスミレ、セイヨウタンポポ、カンサイタンポポ、スイバ、カラスノエンドウ、ヘビイチゴ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、キュウリグサ等が咲き、山や林にはミツバツツジ、コバノガマズミ、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、ザイフリボクが咲いています。アケビ、ミツバアケビも可愛い花を咲かせていました。畑ではナノハナ、ショカツサイ、パンジー、ユキヤナギ、シャガ、ハナニラ、キンセンカ、セキチクが咲いています。

<ならやま・イベント報告>

ならやま **“菜の花まつり”**

西谷 範子

4月11日は気温26℃という好天?であった。生協がすすめる菜の花エコプロジェクトの最初のイベント、まずは満開の花を愛でながら、菜種油で揚げた野草の天ぷらを楽しもうという祭りがならやまで開かれた。

今年は3月の異常な暖かさのため菜の花は早々と咲き、4月まで持つのかとずいぶん気をもんだが、直前に寒の戻りがあり無事まつりには満開となった。

当日は生協会員の方と奈良・人と自然の会会員、61名の参加。ハーモニカやテープに合わせて懐かしい歌の大合唱のあと、ユキノシタ、ヨモギなどの野草10種ときれいな菜の花の天ぷらが山盛りに供された。他に味噌汁とならやま産の筍ご飯などに舌鼓を打った。午後は子ども達も一緒に、明るく整備された里山を散策。満開の山桜やザイフリボクの木々にケマンソウ、キランソウ、ホトケノザの春の花々もいっぱい。

朝日新聞の取材があり、翌日の新聞に写真入りで掲載された。

春のならやま・**自然観察と自然工作**

小嶺 敏勝

4月12日(日)なら山里山林にて、杉の子文庫の子供達と保護者21名を迎えて開催した。杉の子文庫は地元で佐保台と反対側の不退寺近くの佐保の子供達だ。

10時半に歩いて来場、阿部会長の挨拶の後スタッフの自己紹介後、守口さんの案内で観察会、草むらで可愛い花を沢山見つけ、虫メガネでのぞいたのはヘビイチゴの黄色の花、ぶらぶらゆれるクヌギの花にびっくり、アオキの花も人気、ウワミズザクラは満開、落ち葉の絨毯の上を歩き、伸び始めた新緑と森の空気で元気が蘇った様子。

お昼は岸谷さん夫妻調理の豚汁が、またたくまに、なくなる。

午後は鈴木さん用意のフクロウ工作に挑戦、それぞれが個性豊かな作品を完成。発表会は皆得意顔、他に用意したレインステック作りは時間が無く説明のみで材料を各自持ち帰る。

一歳の赤ん坊が見本のレインの音を聞き、身体全体で喜びを表現していたのが印象に残る。

なごりを惜しんで3時前に皆さん元気に帰路につく。

*参加スタッフ： 阿部、古川、守口、鈴木末、岸谷順、岸谷和、小嶺

忍辱山に感謝

守口 京子

ありがとうを言いたくて筆をとりました。私が忍辱山に行き始めたのはただ単にどんな所か見てみたいの興味からだけでした。それが私にとってこんなにも貴重なよい経験になるとは思いもしませんでした。

感心した1つ目は会員の人達の活躍ぶりです。全員が実に真剣に力強く、しかも協力して作業しているのです。現場は急斜面のある森の中で上り下りするだけで足が疲れます。道のない山の中を歩くのは私にとって初めての体験でした。リーダーのきびきびした指示でペアを組んで作業をするのは快い緊張感です。鋸や鉋やロープを使って手作業で大きな木を切り倒し、玉切りをし、積み重ねていきます。とてもシニアとは思えません。それどころか若い人達もかなわないでしょう。普段の例会やなら山活動日などで見せる穏やかなにこやかな表情とは全然違うのですっかり見直しました。

2つ目は森林の生態の素晴らしさです。活動するうちに森の地面のようすがわかるようになりました。森には遊歩道沿いの高い所、急斜面、緩斜面、すり鉢状の谷底、地面のでこぼこがあります。それぞれの場所で様々な植物が自分の適所を見つけて生育しています。この当たり前のことを実感としてとらえることが出来ました。木の根に浸みこんだ雨水は地面からしみ出て谷底に湿地を作り、ちよろちよろと川の流れを作り下へ下へと流れて行きます。川の始まりでこれからはるか大阪湾まで流れて行きます。水が上から下へと流れること、これもまた当たり前のことが本当だと実感しました。森の栄養たっぷりの水が大地をうるおし、すべての生き物の命の源となるのですね。

谷底の湿地にはミズゴケが生えていてハンノキがたくさん育っています。早春のハンノキは赤茶色の花をたくさんぶら下げていました。そしてちょっと上の斜面のヤシャブシは少し遅れて緑色の太長い花を付けました。植物はきちんと住み分けているのです。また足元のたくさんの種類のコケの美しさは思わず見とれるほどで、どこを歩いたらよいのか困るくらいでした。植物が自ら育とうとするたくましさを感じることができました。公園や山道を歩いて観察するのはまた一味違う感じ方でした。ああだから皆さん森に魅せられて活動に来られるのだなと思いました。

雑木林の整備では落葉樹を残すように間伐したので、これからツツジや桜が咲いてくれるかなあと楽しみにしています。また見に行くつもりです。親切にご指導いただき、仲よくくださった皆さんありがとうございます。国有林関係者の皆さん貴重な体験をさせていただきありがとうございます。そして森の素晴らしさを教えてくれた忍辱山に感謝と感激。美しい森がいつまでも続くように願っています。



里山林の侍たちとお局さん II

川井 秀夫



今年も、このフィールドには自然の精気と人の熱気が満ち溢れている。

ここで活動する女性陣を、お局さんと洒落ては見たものの、どうしてどうして、飾り気のない素顔の女闘士の実像が見えてくる。

私もこの世界に入って色々な女性の方と活動して来ましたが、価値観の違いこそあれ、自然に対する純粹さ、自己犠牲の精神、男性顔負けのタフな行動力、ただただ脱帽する事が多かった様に思う。

筆頭に豊島すみ子さん。二代目の副会長として私の右腕として四年間支えて頂きました。今は生協の重鎮として、菜の花PJの旗手と二足草鞋で頑張っている。

会議など論戦の輪の中に、この方の一言が空気を和らげる事もしばしばで、当会の女房役として不可欠な方と思っている。小柄ながら大きな膽が「篤姫、の様な・・・。

小田久美子さん。言わずと知れた当会の野鳥に関する第一人者である。

会報誌3月号のコラムにハチドリの話の下りがあり、山火事で動物が皆逃げるなか、一生懸命消化の水を運ぶ姿。鳥曰く、「私に出来る事だけをやっているのヨ」と、正に奢りのない献身の心が描写されてをり、我々も身の丈にあった活動こそと改めて自覚した次第である。奈良検定では当会ただ一人の一級認定者であり、その才女ぶりには正に鳥人・超人の尊称を奉りたい。

守口 京子さん、林 令子さん。このお二人は正に闘士の名が相応しい様に思う。

当会の活動の場には、いつもお元気な顔があり、好奇心・研究心の旺盛なオールラウンドプレイヤーと言った所でしょうか。

Mさんは衣装を変えると女官の様な、奈良好きで行動力のあるHさんは邪馬台国の卑弥呼がこんな人ではなかったかなと。私の勝手な想像ですが。御免。

西谷 範子さん。この方とは当会の初期の頃、高円山の大文字の火床を見て、植物観察をした事が記憶にあり、山野草に詳しい人だなと感服したものでした。

今、里山ではお花畑のお守りと炊事に助力して頂いている。いつも野趣に富んだ手料理を御馳走になり、正に里山の「お母さん、。と言ったら、まだ若いのヨと叱られるかな・・・。

紙数が尽きました。この稿はまた機会を得て寄稿したいと思います。

今年もシニアから新しい方々の入会があり、地域の方の参画もあって益々充実した里山の諸活動が展開される事と思います。私も身体条件が続く限り「生涯現役」を座右銘として頑張ってお参ります。今後ともお手柔らかなによろしく。

次回はこの稿も最終回としてお届け致します。



昆虫のネーミング

菊川年明

昆虫の名前という普通は種名のことである。昆虫の種名には学名と和名がある。学名は万国共通の学術上の名前、一定の約束事のもとに命名され、1種につき1名称が原則である。

私たちが親しんでいる昆虫の名前は和名（日本名）で、そのうちの普遍化されているものを標準和名と呼んでいる。しかし、標準和名には約束事は設けられていないので、ある意味では曖昧なものでもあり、明治以降に出版された権威のある図鑑あたりから広まったもののようである。

昆虫少年だった手塚治虫氏（故人）や北杜夫氏らが愛用したという平山修次郎著の「原色千種昆虫図譜」（初版発行昭和8年）には標準和名に括弧書きで別名を添えてあるものがたくさんある。例えばカブトムシ（サイカチムシ）、シロスジカミキリ（クリカミキリ）、ギフテフ（ダンダラテフ）、オホミヅアヲ（ユウガホベウタン）、クロスズメバチ（ヂバチ）などである（旧仮名遣いによる）。標準和名の学術的な表記は、カタカナ書きが慣行（戦後）になっている（動植物全般）。

昆虫の和名は色彩、形態、類縁関係などから名付けられていることが多く、名前を聞いただけで大体どのような昆虫かの察しがつくのが普通である。色彩や形態からはアカ・ベニ・アオ・ルリ・キ・シロ・クロ・オオ（大）・コ（小）・ヒメ・ナガ・マル・ホソ・フトなどがつくものが多く、末尾に類縁から〇〇カミキリ・〇〇アゲハ・〇〇トンボ、〇〇バッタなどと締めくくられているものが多い。

ごく小さい昆虫にはマメやチビと名付けられたものもたくさんあり、中にはマメチビキカワムシというものまである。この昆虫は体長が2 mm くらいで、チビキカワムシという微小昆虫のグループの中であって、最も小粒ゆえの名前である。今日的にはマメはともかくとしても、チビという呼称はいさかか気にならないでもない。

昆虫の棲息場所に基づく命名もある。キノコムシ類は茸の中にいるから、クチキムシ類は朽ち木の中にいるから、ハムシ類は植物の葉の上にいるから、というわけである。ゴミムシという一群の昆虫はおおむね塵埃の中にいるのではあるが、可哀想な名前である。

そのほか、ダマシ、モドキ、ニセという名が冠せられた昆虫もかなりいる。ある種の昆虫に似ているところからの命名である。ゴミムシダマシ、カマキリモドキ、ニセリンゴカミキリなどである。中にはニセクロホシテントウゴミムシダマシという長ったらしくて、しかもニセ〇〇〇〇なのか、〇〇〇〇ダマシなのか判然としないものまである。

一般的にはハナアブ類として親しまれ、可憐な草花の景物になっているオオハナアブやナミハナアブについて、前者をオオアブバエ、後者をハナアブバエと従来の和名と異なる名前を記載している図鑑がある（保育社 原色日本昆虫図鑑 下巻 昭和52年初版発行）。ハナアブ類は人畜を刺す本来のアブではないが、ハナアブとして従来親しまれてきており、ハエというイメージのよくない呼称をわざわざ冠するのは如何なものであろうか。そういうこともあってかこれは定着していない。

艶やかに百花の妍けんや信貴平群

秀夫

2月3日、4月例会。平群桃源郷。モモ・サクラ・サンシュユ・レンギョウ・ユキヤナギ・コブシ・リョウブ・ハクモクレンと咲き競う。四辺の山は遠霞。春爛漫の一日を楽しむ。

登り下り歩く平群は花の郷

野田 陽子

案内通り、花いっぱいの素晴らしい1日でした。

踏み迷う業平道は花の路

古川 祐司

古の業平道に花に酔い、陶然とした一日を過ごさせていただきました。

[短信]4月1日。当会のサークル「のらの会」。佐保川堤に花見の宴。八人衆 健吟の一句。

安川 和男 通り雨下戸は花見を楽しめり
 菊川 年明 花時雨ええじゃないかとのらの会
 弓場 厚次 佐保の花に楽しき宴いつまでも
 水本 遼真 佐保川の桜の頃や生き甲斐と
 古川 裕司 佐保媛の泪の川か花流る
 阿部 和生 盃に浮かべし桜世の絆
 鈴木 末一 万葉の浪漫を想ふ花見会
 川井 秀夫 風狂の酒あれば佳し四月馬鹿

とりシリーズ

ハハジマメグロ (Bonin Honeyeater)

世界中で東京都の母島にしか見られない固有種です。特別天然記念物・小笠原村の鳥スズメぐらいの大きさです。白いアイリングの周りに三角形の黒い斑があり額も黒いT字形があります。森林に多く生息し、集落内ではパパイヤやガジュマルの樹木のあるところで見られます。母島の乳房山では鳥たちの水呑み場が作ってありました。木から流れてきた雨水を棕櫚のひもを伝わせて貯めていました。水が入っているかどうかガイドさんたちが気にかけていました。メグロは母島の人たちに大切にされていました。生息数15000羽程度



母島ガイド梅野ひろみさん 撮影
 東京都の竹芝桟橋から小笠原丸に乗り、25時間の船旅です。父島に着いたら、母島丸に乗り換えて2時間。母島に到着です。楽園まで1000km余やっとならメグロに出会えました。

*日本語の無人がボニン (Bonin) になった

文責 勝田

行事案内

* 原則：前日午後7時前のNHK天気予報で降水確率（午前）60%以上の場合は中止*

『ならやま里山林プロジェクト5・6月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

場所 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林（JR平城山駅下車徒歩10分）
 —「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—
 （案内図が入用の方は、問合せ先までご連絡下さい）

日時

5月 8日（金）	一般活動日（ナスクラブはナス植付け）
5月11日（月）	ならやま野鳥観察の日（小雨実施）
5月14日（木）	ならやま山の日（里山整備）
5月23日（土）	じゃが芋掘り、サツマイモ植付け
5月31日（日）	雨天予備日
6月 4日（木）	一般活動日（田植え）
6月 8日（月）	ならやま野鳥観察の日（小雨実施）
6月16日（火）	一般活動日
6月18日（木）	ならやま山の日（里山整備）
6月30日（火）	予備日



集合 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時

交通 ①近鉄奈良駅 バス13乗場8:23発 高の原行
 ②近鉄高の原駅 バス1番乗場8:30発 JR奈良行
 ①②とも佐保台西口、または平城大橋下車 徒歩約7分

携行品 弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地にて用意）
 *環境保護のため、コップ・箸・椀は各自でご用意下さい。

活動内容・里山林整備、環境整備、植生調査、放置田跡の笹刈、花木植栽等の景観形成
 農事作業、除草、有機栽培のための堆肥作り、土作り

*自由活動日について

当面の間、火曜日、金曜日を「ならやま自由活動日」とします。活動される方は担当幹事まで。

*担当幹事 古川 小嶺 岩田利秋

ならやまの野鳥観察 *夏時間に変更しています。ご注意ください。

～野鳥の会奈良支部・川瀬支部長のご指導による～

★日程：5月11日（月）

☆出発時間・場所：7時・ならやま駐車場 *4～7月は早くなります！

★観察場所：里山林散策路内の定点及び定線観察

☆持ち物：双眼鏡・飲み物・歩きやすい服装・マイコップ（弁当・雨具は適宜）

★小雨決行。判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。中止の時は次週に順延。

☆担当者：小田 ・ 菊川

《5月度 通常総会のご案内》

通常総会に合わせて新入会員歓迎昼食会を行うことになりました。すでに4月度のご案内でお知らせいたしました内容と変更になった部分(昼食会と「ならまち散策」集合場所)がありますのでご注意ください。下記の要項で開催いたしますのでよろしくお願いいたします。

第8回 通常総会のご案内

日時 : 平成21年 5月24日(日) 午前10時より
会場 : 奈良市 中部公民館 第4講座室
奈良市上三条町23番地の4

会次第 : ① 第8回 通常総会 10:00am~11:40am
② 新入会員 歓迎昼食会 11:50am~12:50pm
③ ならまち散策と元興寺を訪ねる 1:00pm~ 3:00pm

* 委任状をご提出された方でも「ならまち散策」にはご自由にご参加ください。

【ならまち散策】: 午後1時 奈良市中部公民館2階 ロビーに集合

* 総会出席者に昼食(弁当・有料)を用意いたしますので受付でお支払下さい
但し、総会にご出席で昼食が不要の方はその旨を前もってご連絡下さい

(連絡先 : 守口京子)

・ お飲物は各自で用意ください ・ 現会員で名札をお持ちの方は着用



会員皆様のご参加をお待ち致しております

5月度例会

「ハツ房スギ(国指定天然記念物)から青蓮寺へ」

宇陀佐倉峠の近く、桜実神社の境内に数本の巨幹が、あるものは上方に、あるものは水平に伸びる複雑な樹形を持つ推定樹齢2000年・全周囲が13.5mのハツ房スギを観に行きませんか。続いて世界のカエデ・モミジが1200種3000本を育成する「宇陀市カエデ園場」を見学し、世阿弥の謡曲「雲雀山」の舞台、右大臣・藤原豊成公の娘、中将姫が建立した尼寺『日張山青蓮寺』を巡ります。

日時 : 5月26日(火) * 雨天の際は5月28日(木)に実施します。
集合 : 近鉄榛原駅 南口 バス停留所 午前9時10分
(橿原神宮前行急)・大和西大寺8:22...大和八木8:42着(乗換)
(宇治山田行快急)・大阪上本町8:15...鶴橋8:18...大和八木8:53...榛原9:06着
コース : 歩行時間 約3時間30分(楽々コースです。)
近鉄榛原駅(バス) 桜実神社前...「桜実神社」『ハツ房スギ』...「宇陀市カエデ園場」
...「日張山・青蓮寺」...「真証寺」『無渋カヤ』...宇賀志(バス3:18)・近鉄榛原駅
持ち物 : 弁当 観察用具 飲料水 傘 or 雨具
担当 : 弓場厚次 高橋弘志

〈6月例会〉

金沢・能登 里山文化を訪ねる

「三井物産環境基金」の応援を得て、金沢大学のご協力で「金沢・能登 里山文化を訪ねる」をテーマに
つぎのとおり研修会を開催します。

奈良・平城山の歴史的風土の環境保存のため里山林景観形成活動を、さらに大きく飛躍発展させ、親睦と交流
を深めようと金沢大学で講演を聞き、「里山里海自然学校」を見学します。多くのご参加をお待ちしています。

1. 日 時:平成 21 年6月10日(水)～11日(木)
2. 集 合:近鉄、京都線・高の原駅 西側 ひまわり館前 8 時 10 分(時間厳守)
交 通:(大阪難波)(快急)7:20—(鶴橋)7:26—(生駒)7:41—大和西大寺 7:50(京都線③線に乗換)
(橿原神宮前)(急行)7:21—(大和八木)7:29—大和西大寺(③線)7:53—高の原 7:58 着
(京都市行各停)大和西大寺(③線)7:57—高の原 8:02 着
3. 日 程:(10 日)金沢大学「角間の里記念館」にて宇野文夫客員教授の講演
(11日)金沢大学「里山里海自然学校」、里山百選・町野町金蔵(輪島市)、千枚田など見学予定。
4. 宿 泊:珠洲温泉・のとし荘—珠洲市宝立町鶴飼 1-30-1
5. 費 用:¥13,000円
6. 申込方法:岩田宛にeメールまたはファックスにて名前と電話番号を添えて申し込みください。
申込先:岩田:FAX(0745—48—5608)/メール:futakami-iwa.05@leto.eonet.ne.jp
7. 申込締切日:5月15日(先着40名になり次第締切ます)
8. その他:日程の詳細は参加者に後日連絡します。(帰着・高の原 20:30 頃予定)

担当:川井 秀夫()、岩田 利秋()

平成21年度4月度幹事会議事録

日時 4月8日(水) 場所 中部公民館 司会 小田 記録 西谷

報告事項

- ① 会員数 121名
- ② 3月例会:「壺坂、高取城と雛の里」21名参加。4月例会:「平群桃源郷」27名参加。
- ③ 忍辱山森林整備事業 3/17(火)13名 整備作業とゴミ拾い。今回で終了。
- ④ ならやま里山林プロジェクト 3月の活動一定例日3日、鳥の日、延べ104人
・A地区—笹刈り終了、樹木調査終了整理中。トイレ据付・竹囲い完了、赤米田準備。・D
地区—しいたけ140本菌打ち、ピオトープ担当者必要。・作業後、里山について意見交換会。

確認事項

- ① ならやまプロジェクト:イベント予定と担当者決定。菜の花まつり:進行順と準備事項。
- ② 新人歓迎会は5/24の総会後に中部公民館で歓迎昼食会を行う
- ③ アースデー(4/19)参加 竹細工 スタッフ7名決定
- ④ 6月例会 一泊研修 6/10～11 「金沢・能登 里山文化を訪ねる」

13,000円 先着40名 申し込み先: 岩田 5/15 締め切り 5月会報で案内

編集担当:勝田 均

TEL&FAX

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生

小学校の校庭の自然観察会に参加しませんか！

☆ 授業の一環として、児童と一緒に校庭の自然を観察します。

☆ 自然の不思議や面白さを知ってもらい、自然を好きになってもらうのが願いです。

1. 現在各地でさまざまな団体が、こうした活動をしています。

シニア自然大学でも大阪府を中心に熱心に活動しています。

奈良人と自然の会としても、奈良県内でこんな活動を始めてはどうかと考えました。



2. いま想定している内容は次のようなものです。

- * 総合的な学習の時間を2時間いただき、観察会を行なう。
- * 校庭の木や草を中心に6~7ポイントを解説する。
- * 五感を使った観察を中心に、自然に親しんでもらう。
- * 楽しいネイチャーゲームも取り入れる。
- * 時間があれば自然素材を使った工作も行なう。
- * 1グループ7名前後の少人数とし、それぞれにスタッフがつく。
- * 報酬は殆どない見込み



3. こうした観察会が出来る体制を作るため、参加スタッフを募り準備を始めたいと思います。

- * まずスタッフ相互の研修機会を2~3回設けます。
- * 実施する学校が決まれば、下見や打合せを行ない、具体的な準備をします。

4. 実施する学校はこれから照会や折衝を始めるため、どの程度の申し込みがあるかはわかりませんが、ゆっくり、じっくり取り組んでいけばよいのではないかと考えています。

自分もやってやろう！参加してみたい！と思われる方は下記までご連絡ください。



阿部 和生

倉田 晃

